

一般社団法人 医療安全全国共同行動 主催
RRSセミナー～急変時の迅速対応とRRS(Rapid Response System)～ プログラム

プログラム	時間(分)	講師(敬称略)	(所属・職名)
eラーニング			
講義(1)「院内迅速対応システム (Rapid Response System:RRS)総論」 本講義では各医療機関でのRRS実装に向けて、システムの概要を理解することを目標とする。患者安全を守るシステムとしてのRRSの位置づけについて、院内心停止関連の疫学など、導入が議論されるようになった背景や課題、現状などを含めて紹介する。またRRSに関連する用語を整理し、システムに組み込まれるべき4つの基本要素を中心に解説する。	30	中村 京太	(横浜市立大学附属市民総合医療センター 医療の質・安全管理部 部長 診療教授)
講義(1)の知識習得確認テスト	10		
講義(2)「気づきのコツ」 「この人、もしかして重症？」と気づくには、少しの「コツ」が必要だ。日頃の診察や観察の中から、重症化に気づく「コツ」について考えてみよう。これは、どの職種にも身につけて欲しいスキルであり、RRSにおいては要請する側と対応する側の双方が必要となるスキルでもある。RRSが動き出すきっかけとなる「気づきのコツ」を知り、現場で広めよう。	22	西尾 陽子	(社会医療法人 大雄会 総合大雄会病院 集中治療室 看護師)
講義(2)の知識習得確認テスト	10		
講義(3)「対応チームを作ってみよう(MET,RRT)」 RRSを導入する時に、きちんと機能する対応チームを作り上げることが、RRSを成功させるための第一歩となる。医療文化の違い、病院規模、病院機能によってチーム構成は様々である。今までも、どのようなチームがベストなのか様々な議論がなされている。これらの観点を踏まえ、どういったチームを作ればいいのか、携行資機材は、必要とされるスキル、等について解説を行う。	29	藤原 紳祐	(国立病院機構 嬉野医療センター 救急科 救命救急センター長)
講義(3)の知識習得確認テスト	10		
講義(4)「シミュレーション・振り返り」 対応チームを作っても、チーム員が自分の役割が把握できていないと、チームはうまく機能しない。チーム員が自分の役割を把握し、システムに改善が必要な点がないかなど検討するために、実際の症例を想定したシミュレーションを行うことが有効である。本講義では、実際のシミュレーション例を動画を交え、シミュレーション時の振り返りポイントなどを整理する。	73	江川 裕子	(さいたま赤十字病院 高度救命救急センター 副部長)
講義(4)の知識習得確認テスト	10		
講義(5)「RRS委員会のデモ」 急性期充実加算のRRS要件の中に、多職種からなる委員会の設置、及び対応状況・発生状況の把握が盛り込まれている。本講演では実際に当院で月1回開催しているRRS運営委員会のデモ動画を通して、症例の振り返り・症例蓄積の実際を解説を交えながら紹介する。 1. 当院RRS運営委員会と院内救急対応システム 2. エクセルシートを用いた1ヶ月の振り返り 3. Code Blue症例の振り返り(Preventable Deathについて) 4. RRS症例の振り返り	44	谷井 梨美	(聖マリアンナ医科大学 助教 横浜市西部病院 救命救急センター)
講義(5)の知識習得確認テスト	10		
講義(6)「診療報酬改定の要件」 2022年度は、大きな診療報酬改定の一つに、急性期充実体制加算が挙げられる。急性期病院にて院内急変対応システム(RRS)の体制構築が必須事項となっており、体制構築をするために必要な事項を当院での取り組みを交え解説する。	31	藤谷 茂樹	(聖マリアンナ医科大学 救急医学(集中治療) 教授)
講義(6)の知識習得確認テスト	10		
eラーニング合計時間	289		
オンラインライブ配信 (Zoomミーティング)			
パネルディスカッション・質疑応答	60	司会/進行役(予定): 安宅 一晃(奈良県総合医療センター 集中治療部 部長) パネリスト(予定):中村 京太、西尾 陽子、藤原 紳祐、江川 裕子、谷井 梨美、藤谷 茂樹	
eラーニング + オンラインライブ 総時間数	349		

※ やむを得ない事情により講義テーマ・講師が変更になる場合があります

(テスト時間は目安)

※ 講師の所属・職名は2022年5月時点のものです